

株式投資・トレードで根本的に必要なものは確固とした揺るぎない相場哲学とその哲学に基づく売買ルールである。株式投資・トレードの成果は、①原理原則、②定石、③建玉法、④相場の背景の四つ要因からなる関数であり、次のような相場哲学で表せる。

成果Ⅱ（原理原則×定石×建玉法）×相場の背景。
ここで、建玉法とは売買ルールの体系の核となる部分であり、「建て」（仕掛け）、「切り」（手仕舞い）を効率的に行うためのルールの有機的集合である。特に「買いは芸術、売りは技術」

実学の株式投資技術の必要性 (24)

実践的な

売買の方法



愛知淑徳大学経済学部教授 根 幹 三 矢

と言われるほど「売り」は難しい。だから売買ルールが必要なのである。では、売買ルールはどのように構成

みや・みきね コーポレートファイナンス・証券投資論・株式投資・トレード技術。元ドイツ銀行名古屋支店支配人。英国リース大学経営学大学院・MBA (Finance)。1959年生まれ。

築すべきであろうか。

まず、じっくり観察し、観察からひらめきを得る。そのひらめきから仮説を立て、その仮説を過去のデータで実証する。実用に耐え

るくらいの精度で実証できたら、次はさらに多くの銘柄でバックテストを行いながら、うまく機能する局面と、うまく機能しない局面を見極める。うまく機能しない局面を避けるという条件を付けて、その仮説をモデル化して売買ルールとする。

しかし、これで完成となるわけではない。売買ルールを少額の実戦売買に適用しながら実戦経験を積み重ねる。並行してシミュレーション売買により場数を幾

移動平均線の傾きで判断する。株価が上がる時の特徴は陽線が多いこと。陽線が続く時、ほとんどの場合、株価は上昇基調にある。

しかし、横ばいでも陽線が続くときがあるので判定精度を高めるためにはどうしたら良いだろうか。10日移動平均線の傾きが上向き、かつ、株価がその上

陽線が続く時、株価は上方に動いているはずである、と仮説を立てる。そして、検証する。まあまあ良さそうだけど時々陰線が入るにもかかわらず上昇トレンドを維持することが多い。

そこで、小さな陰線なら無視することにする。それでも大きな陰線が突如出た時にはその後は反落基調に転換する可能性が高いので、日足で安値を切り上げて

このルールはどうだろうか。銘柄と時期によるが割と上手く行く。このように観察によりひらめいた仮説をデータで実証し、自分の売買ルールに組み込んで行

「質も上がる」。さて、ここから具体例で説明しよう。難しい問題は分解して考え、解像度を高めると解きやすい。勝つための秘訣（ひけつ）は、勝ち易い局面（ひけつ）は、勝ち易い局面だけで勝負すること（横ばい相場など勝ち難い局面では取って勝てない）。それはどんな時か。上でも下でもどちらでも株価の動きに傾きがある（トレンドが発生している）ときである。傾きはどうやって気が付くか。それは、10日・25日